

公開講座

「認知症の人と共にいること」

The 29th Tohoku Occupational Therapy Congress in Yamagata

妻千佳子と共に当事者として 地域で暮らし続けてきた活動からみえてきたこと

富樫 智宏

認知症の人の家族の立場から



69歳、平成19年8月、大学病院で初診。初診の診断結果（5分5分、どちらかと言うと「黒」、将来は…、大事な事は活動を続けること）後、「病気に向き合う」にはどうすればよいか悩む。情報を得て「家族の会 山形支部」代表を訪ね、平成21年11月71歳で入会する。入会后〔つどい〕・交流会・各種講演・イベントに2人で参加し、多くの人と出会い、妻を知っていただいた。その中で、いろいろな事を教えてもらい、案内や紹介やサポートで、地域の中で生活や活動をすることができた。

共にそれぞれの生き方を楽しむ、支え合う生き方から…

「活かして 生かしてくれた活動」ある地方グループホームで妻の自毛筆で大判用紙に歌詞を書いて、皆で歌う会、歌に関するそれぞれの思い出話や光景を話しながら。月1~2回程度5年。同じような催しを地域の〔地域のいきいきサロン〕や妻の実母の施設でも行った。また、支部の会誌の表紙に〔今月の歌〕を毛筆で、そしていろいろな会や〔つどい〕やイベントの終わりに音頭と指揮をとっていた。

「元気で楽しくできた活動と生活」新しい生活と活動に挑戦し、元気に楽しく。ある時の〔つどい〕で、ある世話人の紹介と情報提供で、2人で視察して、妻本人の意志で決定したこと。「施設には絶対行かない、世話にならない」と言っていた本人が「ここなら来てもよい」と。山形市内だったので私の送迎は大変だったが、帰路の車の中で、今日の事を話してくれた。施設側のケアが良かったようだ。コーラスにかつて3回所属したが、何やかやの事情でやめていた。これも情報提供で、童謡を歌う会のフィステバルに行き、私が認知症であることを告発し、本人が指揮者に懇願して入会。今まで多くの合唱でも経験したことのないソプラノに抜粋され困惑したようだったが、手話と韓国語の歌でも発表会などで見事に成し遂げた。

私も会員も皆様も驚きびっくりし、認知症の人でも新しいことができることがあると認識した。

発表事例はたくさんあります。皆さんにお願いしたいこと；認知症は、薬より《接し方》（ケア）次第で、良くも悪くもなることが体験と研究で見えた。より有効な活動と支援をお願いしたい。

略歴 ● 富樫 智宏 千佳子（とがし とみひろ ちかこ）

昭和36年3月 山形大学卒業 2人共教員 卒業後結婚

千佳子 51歳 退職

69歳 平成19年8月 東北大学病院老年科初受診
東北大ー山形大ー東北大ー山形大（平成24年7日）と転院

71歳 平成21年10月 認知症の人と家族の会 に入会（2人で）
平成25年3月 デーサーサービス利用

シンポジストとして 山形フォーラム、東北地域認知症ケア学会、東北朝日フォーラム

78歳 平成28年6月 施設入所

79歳 平成30年1月 逝去